

第66回東伏見スポーツサイエンス研究会

日時 2020年12月18日(金) **16:30~18:00**

場所 早稲田大学79号館(STEP22) 205教室

演題

日本のスポーツ界における Black Lives Matter

永塚和志(ジャパントイムズ報道部記者)

■今年、米国を中心に大きなうねりを引き起こした黒人人権運動“Black Lives Matter”。国際結婚等が増え国際化が進む日本においても「海の向こうのこと」と他人事のように言われていた状況ではなくなりつつある。スポーツでは東北楽天ゴールデンイーグルスのオコエ瑠偉選手が、自身が黒人との「ハーフ」であることから受けた幼少期の辛い体験をSNSで吐露。一方、やはり黒人のハーフである大坂なおみ選手が優勝を果たした全米オープンで理不尽に命を落とした黒人市民の名前を記したマスクをインタビュー時に着用し人種差別に抗議するなどの動きもあった。他方、こうしたバイレイシヤル(マルティレイシヤル)なアスリートに対する、一部の心ない日本国民の声が散見され、国際化、人種等の多様化に対するこの国の認識がまだそのスピードに追いついていないようにも感じられる。英字新聞記者である講演者は今夏、日本のスポーツ界で活躍するバイレイシヤルな人物たちに話を聞き現状を記事として紹介しているが、あらためて記事に沿ってこの国のスポーツ界でのBLMについて考える。

■プロフィール:2005年より英字紙・ジャパントイムズ記者。プロ野球、バスケットボール、アメリカンフットボール、個人競技等などの競技を取材するスポーツ記者を務める。大きな大会ではワールドベースボールクラシック、NFLスーパーボウル、バスケットボールワールドカップ等の取材経験がある。日本バスケットボール殿堂投票委員。

